

[成果情報名]クリ「筑波」における落葉前剪定が開花や収穫へ及ぼす影響

[要約]クリ「筑波」において、1～2割程度落葉した12月に剪定を行っても、全落葉後の2月に剪定した場合と、次年度の満開期、収穫盛期および収量は変わらない。

[キーワード]クリ、筑波、落葉前剪定、温暖化

[担当]宮崎県総合農業試験場・果樹部

[代表連絡先]電話 0985-73-2121

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

クリの剪定は、冬季の全落葉後に行うことが一般的である。しかし、近年、温暖化等の影響により落葉が遅いため、年明け後からの剪定となり、その他の管理作業との競合で剪定が不十分となる傾向にある。

そこで、宮崎県の主要品種である「筑波」について、落葉前の剪定が満開期、収穫盛期、収量に及ぼす影響を確認する。

[成果の内容・特徴]

1. 12月剪定時の落葉状況は、1～2割程度で、葉色はまだ緑であるが、2月剪定時は全落葉している（図1、表1）。
2. 12月剪定及び2月剪定における満開期と収穫盛期は、概ね同時期である（表1）。
3. 10a当たり換算収量は、「筑波」では、3カ年とも2月剪定のほうが多いものの有意な差はない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 試験場内（宮崎市佐土原町）の火山灰土壌に定植した開心自然形（2021年時点で樹齢20年生）を各区3樹調査した結果である。結果母枝数は剪定時に1m²あたり3～4本に調整した。
2. 12月は葉が多く残っており、結果母枝が見えにくいので、見落としに注意する。

[具体的データ]



図1 12月剪定前後の樹姿

表1 「筑波」における剪定時期の違いが開花や収穫に及ぼす影響

年度	試験区	剪定日	剪定時の落葉状況	満開期		収穫盛期
				雌花 ^z	雄花 ^y	
2021年	12月剪定区	12月8日	1～2割落葉	-	-	9月22日
	2月剪定区	2月3日	全落葉	-	-	9月22日
2022年	12月剪定区	12月8日	1割落葉	5月24日	5月31日	9月28日
	2月剪定区	2月7日	全落葉	5月23日	5月31日	9月29日
2023年	12月剪定区	12月16日	2割落葉	5月26日	5月30日	10月4日
	2月剪定区	2月26日	全落葉	5月25日	5月30日	10月4日

z：3小花とも満開の雌花が80%に達した日

y：80%雄花穂が満開になった日

表2 「筑波」における剪定時期の違いが収量に及ぼす影響

年度	試験区	樹冠面積 ^z	結果母枝数 ^y	収量 ^x
		(m ²)	(本/m ²)	(kg/10a)
2021年	12月剪定区	33.9	4.0	391
	2月剪定区	44.6	3.9	398
	有意性	-	-	n.s.
2022年	12月剪定区	31.1	3.3	262
	2月剪定区	35.7	3.1	331
	有意性	-	-	n.s.
2023年	12月剪定区	35.7	3.5	140
	2月剪定区	28.3	3.5	157
	有意性	-	-	n.s.

z：東西(m)×南北(m)×0.8から算出（剪定後測定）

y：結果母枝数は剪定時に1m²あたり3～4本に調整

x：樹冠面積と1樹収量から算出

w：t検定により、n.s.は有意差なし

(加治屋 優希)

[その他]

予算区分：県単

研究期間：2021～2023年度

研究担当者：末吉浩二、松浦祥太

発表論文等：令和5年度技術調整会議普及部会（果樹部会・後期）研究成果カード（県HP掲載予定）